

研修参加報告

第 11 回花立セミナー(病院事務職員スキルアップセミナー)

「病院をマネジメントできる職員をめざして」

平成 29 年 7 月 21 日

豊見城中央病院 入退院支援室 仲村桃子

6月24日(土)、25日(日)の2日間宮崎県立日南病院にて今年も花立セミナーが開催されました。今回は事務職から看護師、臨床工学技士、社会福祉士(3名)等あわせ 35 名の参加、うち沖縄県内からは4名の参加となっていました。

2日間のセミナー4 講演のうち一番勉強になったのが、「病院における医療ソーシャルワーカーの役割」という内容。岩手県立二戸病院を経て岩手県立宮古病院の医療ソーシャルワーカーとして勤務し、地域医療福祉連携研究会や連携実務者ネットワーク協議会の立ち上げに入職後間もない時期より携わっている湯澤克氏からの講演。

医療ソーシャルワーカーの役割は退院援助がメインに考えられやすいが、その他にも地域活動等多岐にわたる。退院援助の中でも、転院先の病院や施設の概要はわかるが先方のスタッフの顔や実際に部屋の広さや明るさ等細かいことまではわからないということが多い。「顔のみえる連携」をしていくために湯澤氏は連携実務者による小さな交流会をまずは始め、最初は顔を知ることがメインの飲み会をつくった。後に①病院見学②事例検討③交流会(飲みニケーション)と徐々に交流会の流れが出来ていき、それぞれが情報交換していくことで転院調整をする際にも相手の病院を知った状態での調整となるため、患者にも安心して案内していくことができるというメリットとなっていった。単純に退院援助をしていくだけではなく、「患者のためによりよい連携をしていくためには何ができるか」ということを念頭に置いて動くことの大切さやニーズをひろいどのように解決していくかというプロセスを学びました。